

先端科学技術研究科 修士論文要旨

所属研究室 (主指導教員)	インタラクティブメディア設計学 (加藤 博一 (教授))		
学籍番号	2311210	提出日	令和 7年 1月 22日
学生氏名	新江田 航大		
論文題目	「話しながらなでる」ロボットによる痛みの軽減効果		
要旨			
<p>医療や介護では「なでる」動作と「話す」動作を組み合わせた、「話しながらなでる」動作が用いられている。この動作は「なでる」ことによる、ストレスや不安の軽減、痛みの軽減といったポジティブな効果を「話す」動作でより高めているとされている。また、ヒューマンロボットインタラクションの分野では、ロボットによる「話す」のみ、「なでる」のみの動作より、「話しながらなでる」動作が、より人に快感情を与えることが明らかになっている。一方、痛みを与える影響については、その効果を定量的に示した例は少ない。</p> <p>そこで本研究では、ロボットの「話しながらなでる」動作が心理的影響のみならず、痛みにも影響するか検証を行う。実験では、ゲートコントロール理論に基づき、1)ロボットの「話しながらなでる」動作は痛み軽減効果があるのか、2)ロボットの「話しながらなでる」動作は「なでる」のみの動作より痛み軽減効果が大きいのかを調査した。37名の被験者による評価実験の結果、共に支持され、この結果は性別に依存しないことが示唆された。本研究成果は「話しながらなでる」ロボットによる痛み軽減効果の証明に寄与し、ロボット技術を活用した接触型の新しい痛み軽減手法の可能性を広げる。</p>			